

宮城県臨床検査技師会学術研修会報告書

平成 25 年 11 月 5 日

文責：学術部長 氏家和明

研修会名：「血液ガスっておもしろい！？～血液ガスデータの見方」
会場：TKPカンファレンスセンター カンファレンスルーム3A
日時：平成25年11月1日（金） 19：00～20：30（18：30～受付開始）
講師 三沢 泰一 先生（臨床検査技師 ラジオメーター株式会社）
参加者 会員27名 賛助会員3名 非会員2名 実務委員2名 計36名

内容

今回の研修会は、血液ガスの生理学 酸塩基平衡の生理学 酸素化状態の生理学といった基礎編と、症例による応用編の2部構成により、血液ガスデータの読み方のレベルアップを目指した。

血液ガスの測定目的は酸塩基平衡状態と酸素化状態の把握にある。酸と塩基のバランスは、化学的緩衝作用、呼吸による炭酸ガスの排泄、腎臓による調節の3つの機能により調節されている。その3つの調節はどのようなものか説明があった。酸素化状態の生理学では、好気性代謝、嫌気性代謝の説明があり、血液ガスのラクテート（乳酸）のデータが、細胞の酸素欠乏状態を意味する。さらに The Deep Picture の考え方について、病的ヘモグロビン、酸素飽和度について講義いただいた。

後半は 慢性呼吸性アシドーシス、加齢と pO_2 の関係、COHb 中毒に伴う呼吸性アルカローシス てんかん等の症例を通して、血液ガスの読み方を教えていただいた。

最後は、サンプルの取り扱いに関する注意事項として 適切な抗凝固剤の使用、適切な攪拌、確実な気泡除去についてお話しがあった。

全体を通して、大変わかりやすい講義であったが、講義内容が盛りだくさんで、90分という時間では短いと感じた会員も多いと思う。時間の関係で BE (base excess)、AG (アニオンギャップ) については説明がおこなわれなかったもので、血液ガスの第2回研修会を企画できればと感じた。